



# 但馬水産技術センターだより



## 海況情報 (K2216号)

令和4年8月10日

兵庫県立農林水産技術総合センター  
但馬水産技術センター 発行

### 1. 大型クラゲの出現状況について

大型クラゲ（種未定含む）の出現状況をお知らせします。

長崎県の対馬では散発的な入網が続いておりサイズも大型化の傾向にあります。また、7/26に鳥取県で初確認があったのに続き、8/1に島根県（西ノ島北側海域、出雲市大社地区）で初確認がありました。兵庫県でも今後の出現動向に警戒する必要があります。

#### 【対馬海峡】

- ・漁業情報サービスセンターの出現状況とりまとめによると、8/2～8/8の長崎県対馬の定置網における入網は2～300個体/日（サイズ：傘径60～120cm）となっています。

（出典：一般社団法人漁業情報サービスセンター <http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>）

#### 【山陰】

- ・8/1に島根県の西ノ島北側海域（採介藻：潜り）で1個体（サイズ：傘径70cm）、出雲市大社地区（定置網）で1個体（サイズ：不明）の目撃報告がありました。

（出典：一般社団法人漁業情報サービスセンター <http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>）

#### 【国内フェリー調査等】

国立研究開発法人 水産研究・教育機構が8/2に発表した「大型クラゲの出現状況（国内フェリー調査結果等）について－第1報－」の概要は下記のとおりです。

- ・東シナ海における調査船による目視調査結果  
6/20～6/27の東シナ海西部の17地点での出現量（平均密度）0.041個体/100m<sup>2</sup>。昨年同時期の結果（0.025個体/100m<sup>2</sup>）より多い。
- ・対馬海峡東水道における国内フェリーによる目視調査結果（直近分）  
7/26～7/27の対馬海峡東水道での出現量（平均密度）0.00170個体/100m<sup>2</sup>（計67個体目撃：傘径10～70cm）。昨年同時期の結果（0.00066個体/100m<sup>2</sup>）より多い。
- ・隠岐海峡における国内フェリーによる目視調査結果  
7/17の隠岐海峡での出現量（平均密度）0.00007個体/100m<sup>2</sup>（計1個体目撃：傘径30cm）。昨年同時期の結果（0.0009個体/100m<sup>2</sup>）より少ない。

コメント抜粋：

今年の東シナ海における発生量は昨年よりも多めで、日本周辺海域への出現は遅めで推移しているが対馬周辺を中心に増加しつつあると考えられる。昨年同様に対馬海峡西水道を中心に相当量の大型クラゲが日本海に流入し、主に沖合域を北上すると考えられるが流況の変化により山陰沿岸に接近する可能性がある。移動予測計算の結果では、大型クラゲの多くは山陰・能登半島の沖合を北上し、能登半島には9月上旬に少量が達する可能性がある。

（出典：国立研究開発法人 水産研究・教育機構<http://www.fra.affrc.go.jp/kurage/2022/20220802.html>）

### 2. 大型クラゲ目撃情報の提供をお願いします

- ・月日
- ・位置（緯度・経度、あるいは海区番号、〇〇岬地先、〇〇沖□kmなど）
- ・個体数（目撃数、あるいは入網数/網、入網重量/網など）
- ・サイズ（クラゲの傘の直径のおよその大きさ、約70cm、70～100cmなど）

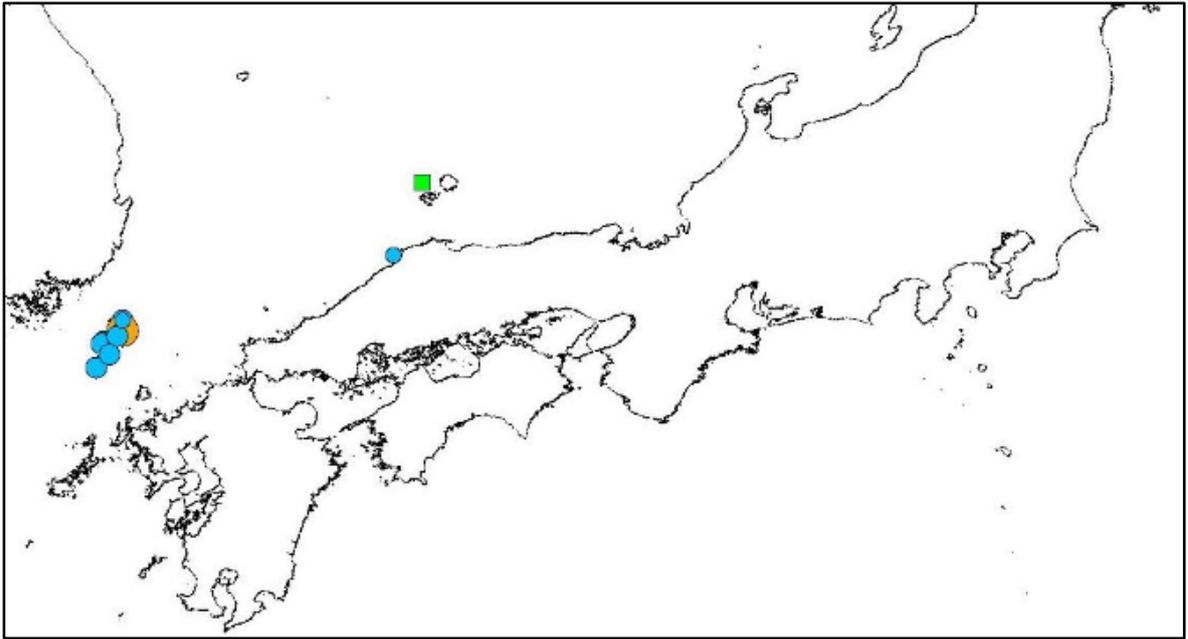
お問い合わせ先：兵庫県但馬水産技術センター（鈴木）TEL：0796-36-0395

FAX：0796-36-3684

ホームページ： <https://www.hyogo-suigi.jp/tajima/>

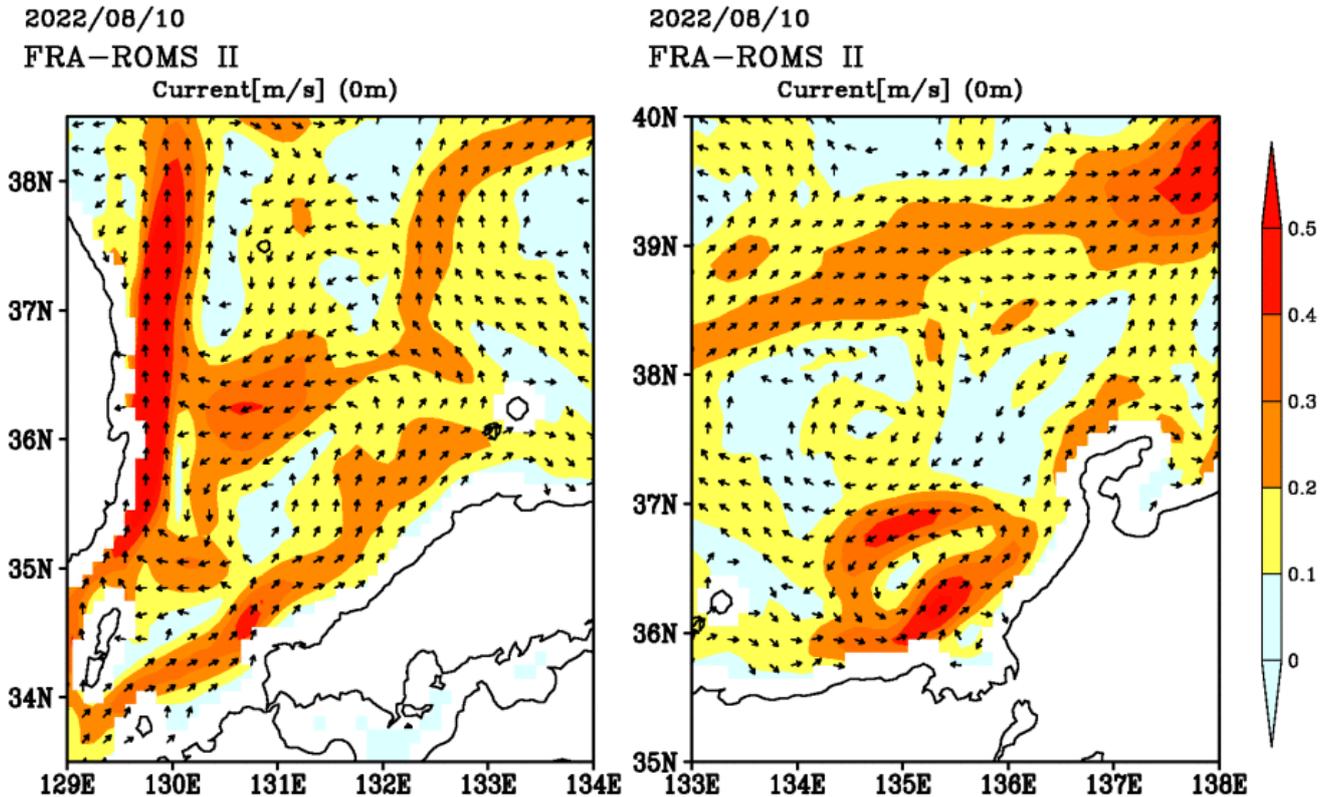
## (参考資料)

■最新の大型クラゲMAP(漁業情報サービスセンターHP8月10日更新分より一部抜粋)



出典：JAFIC/一般社団法人漁業情報サービスセンター  
<http://www.jafic.or.jp/kurage/index.html>

■改良版我が国周辺の海況予測システム (FRA-ROMS II) で予測された日本海の0mの流速ベクトル分布図 (8/10出力)  
(左が南部日本海の8/10の予測図、右が中部日本海の8/10の予測図)



出典：国立研究開発法人 水産研究・教育機構水産資源研究所  
<https://fra-roms.fra.go.jp/fra-roms/index.html>  
※流速値0.5m/sで約1ノット